



避妊・去勢手術について



2023年も終わりを迎えようとしています。
寒さの厳しい季節がやってきますのでわんちゃんねこちゃん
の体調管理には十分に気を付けていきましょう。
今回は新しく動物を家族として迎え入れるオーナー様が気
になるであろう避妊・去勢手術についてのお話です。



<手術を行う目的>



避妊・去勢手術とは、一般に男の子であれば精巣、女の子であれば子宮・卵巣を切除することです。ワンちゃんやねこちゃんを飼い始めの時、避妊・去勢手術という言葉を目にする場面が出てくると思いますが、なぜ行う必要があるのでしょうか。

それは①望まない繁殖を避ける ②将来の病気や問題行動を予防するの2つに大別されます。外でねこちゃんを飼っているオーナー様や野良のねこちゃんに関して①は重要となりますが、普段家の中でわんちゃんねこちゃんを飼われている方にとって最大のメリットは、将来発生しうる病気を予防することにあります。

女の子が避妊手術を行うことで発症しにくくなる病気として代表的なものに乳腺腫瘍や子宮蓄膿症などがあり、男の子では会陰ヘルニアや前立腺の肥大などが考えられます。



乳腺腫瘍：子宮や卵巣といった生殖器からはいわゆる女性ホルモンが分泌されており、それらのホルモンが引き金となって発生しうる疾患です。わんちゃんの腫瘍性疾患では非常に多く、避妊をしていない子としている子では明らかに**発生率が異なります**。ねこちゃんではみられる頻度は少ないものの、悪性度が高いことが多い疾患です。

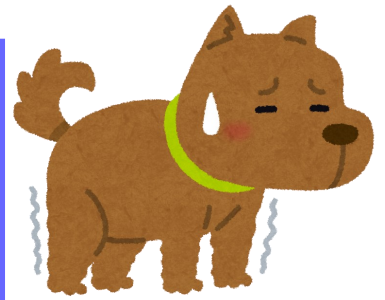


そのほかに**卵巣腫瘍**や**子宮腫瘍**など



子宮蓄膿症：子宮内膜の増殖と細菌感染による炎症が起こり、子宮の中に膿が溜まってしまっている状態です。発情後のホルモン分泌が盛んな状態の時に発症することが多いと言われています。この状態が続くと全身に感染が広がり、最悪命を落とすことにもなりかねません。8~10歳ほどの**中年齢**になると発症のリスクが上がってきます。

会陰ヘルニア：肛門の周囲（会陰部）の筋肉が弛緩することで隙間ができ、その隙間に直腸や膀胱といった内臓器が入り込む疾患です。隙間に入り込むものによって症状は様々あり、直腸が入り込むことで**便秘**や**下痢**などの症状が発生します。自然に治ることはないため症状に悩まされる場合は外科的な介入が必要となる場合があります。**未去勢の中年齢**の子に多くみられ、男性ホルモンが関与していると考えられています。



そのほかに**肛門周囲腺腫**や**精巣腫瘍**など

前立腺の肥大：前立腺が肥大することによって、隣接している尿道を圧迫することで排尿しにくくなったり、**血尿**が発生したりすることがあります。同じく直腸を圧迫することで便秘といった**排便障害**が発生します。前立腺は男性ホルモンによって発達・維持されているため、**未去勢の子**に起こりうる疾患です。



<気をつけること>

避妊・去勢を行うにあたって気を付けなければいけないことは、**太りやすくなる**ことです。術後はホルモンの影響によって基礎代謝が低下するため、術前と同じ量・カロリー of 食事を与えていると**肥満**になる可能性があります。術後に適した避妊・去勢用のフードなどもあるため、食事管理をしっかりと行いましょう。



<さいごに>

避妊・去勢を行っていく事はこのような病気を予防していくためにも大切です。健康に過ごしていくためにもまだ避妊・去勢をしていない子はこれを機にぜひご検討下さい。



年末年始の診療時間変更のお知らせ



12月31日(日)～1月3日(水)



午前 8:30～11:30

午後 13:00～**15:00**



1月4日(木)以降は平常通り診察いたします。

ファミリープラクティス・フードショップは1月1日～1月3日まで休みとなります。